

ダム湖周辺をフィールドとした参加型ヤッホー調査プログラムの開発*
 Development of the participated echo-research program,at around the dam-lake*

澤田 俊明**・花岡 史恵***・福田 景子***・上月 康則****・山中 英生*****・貴瀬 誠*****
 By Toshiaki SAWADA **・Fumie HANAOKA ***・Keiko FUKUDA ***・Yasunori KOUZUKI ****
 Hideo YAMANAKA *****・Makoto KISE *****

1. はじめに

本研究では、徳島県上勝町の2級河川勝浦川上流部に位置する正木ダム湖及びその周辺地域において、持続可能な地域活性化施策との連携を意図して開発された、戦略的自然体験活動プログラムである、参加型ヤッホー調査プログラムを取り上げる。本プログラムは、既存ダム湖や現在存在する自然を活用し、参加者の主体的参加を促す仕組みなどを内在した、地域活性化の一つのソフト施策プログラムである。今回の調査場所を選定した理由は、ダム湖では流水音がなく静かであること、ダム管理道が整備されており交通の便が良いこと、交通量が少なく調査時の安全性が高いこと、ヤッホー調査に適する対面の山が存在することなど、ヤッホー調査に適する諸条件をダム湖周辺が有していることによる。

著者らは、本プログラムの企画立案時から参画し、実施段階でも継続的に関与しているもので、ここでは、本プログラムの初動期の活動を中心として、本プログラムの概要やこれまでのヤッホー調査結果を示し、プログラムのねらいや特徴について考察を行う。

2. 上勝ヤッホー体験プログラム

(1) 体験プログラムの概要

「上勝町参加体験型ヤッホー調査活動プログラム」(以下、「上勝ヤッホー体験プログラム」と略記)は、河川上流地域かつ森林地域に位置する徳島県上勝町において、地域活性化施策と連携し、自然環境及び河川環境を活用した戦略的自然体験活動としてプログラムされた。

上勝ヤッホー体験調査の活動概要、活動経過を表1及び表2に示す。

表1 「上勝ヤッホー体験プログラム」概要

名称	内容
体制	上勝自然体験学習研究会(含むヤッホー事務局) 上勝環境デザイン研究会、環境と川と教育を考える研究会
活動の種類	ヤッホー調査活動 ヤッホー地図作成活動
凡例	ヤッホーホームページ作成活動
: 活動中	人材育成・組織づくり活動
: 企画中	セミナー活動 コミュニティビジネス活動

表2 「上勝ヤッホー体験プログラム」の経過

時期	内容
2001年1月~	企画立案
2001年12月15日	第1回セミナー:地域の魅力と参加型ヤッホー調査の試み
2002年1月26日~3月31日	現地ヤッホー調査期間(調査・申請・認定・登録)
2002年1月2月23日(土)	第2回セミナー:ヤマビコの科学 第3回セミナー
2月24日(日)	ヤッホー調査と五感之図 第1回公式ヤッホー調査
3月16日(土)	第4回セミナー:地域をつなぐコミュニティビジネスの可能性
3月31日(日)	第2回公式ヤッホー調査
4月~5月	ヤッホー地図作成
6月以降	ヤッホーホームページ作成/コミュニティビジネス企画/組織づくり(ヤマビコ認定士試験の実施)

* キーワーズ: 地域計画、市民参加、ヤッホー調査
 ** 正員、工博、(有)環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地 TEL08854-4-6290、e-mail:tksswd@stannet.ne.jp)
 *** 正員、(有)環境とまちづくり(〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地 TEL08854-4-6290、e-mail:et-kmkt@stannet.ne.jp)
 **** 正員、工博、徳島大学大学院工学研究科(〒770-8506 徳島市南常三島町2丁目1番地 TEL088-656-7335、e-mail:kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp)
 ***** 正員、工博、徳島大学工学部(〒770-8506 徳島市南常三島町2丁目1番地 TEL0886-56-7350、e-mail:yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp)
 ***** 楽工房(〒649-6339 和歌山市弘西377-7番地 TEL073-462-4104、e-mail:yahhoo-ojisan@hkg.odn.ne.jp)

(2) ヤッホー調査の内容

ヤッホー調査は、ヤマビコが聞こえる場所（ヤッホーポイント）を見つけると、見つけた人が好きな名前をヤッホーポイントにつけて地図に登録できる自然体験プログラムで、誰もが参加できる。本プログラムは、調査・申請・認定・登録の主要プロセスからなる。図1にヤッホー調査フローを示す。

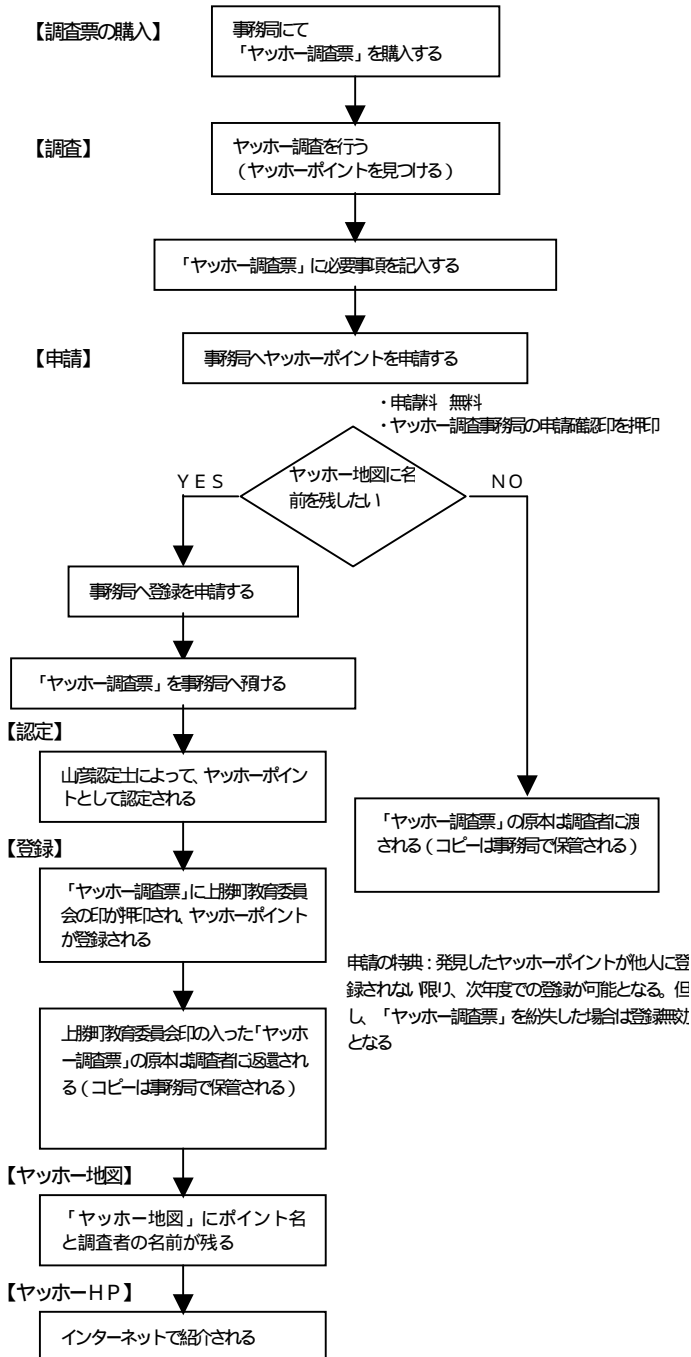


図1 ヤッホー調査のフロー図

今回報告のヤッホー調査は、2002年1月～3月に実施された。調査時期を冬期に設定したのは、この時期が最もヤマビコが聞こえやすいこと、冬期での地域活性化につなげたいことによる。このヤッホー調査は、毎年継続して実施していく予定としている。ヤッホー調査の要領及び調査票の記入事項を表3、表4に示す。

表3 調査要領（2001年1月～3月実施分）

名称	内容
調査者	上勝町内・町外の調査希望者、大人・子供可
調査場所	徳島県上勝町内の勝浦川正木ダム湖周辺
調査時期	2001年1月16日～3月31日
調査	ヤッホー調査事務局にて、「ヤッホー調査票」を入手/各参加者は、現地にてヤマビコ調査/調査結果を「ヤッホー調査票」記入欄に記入
申請	記入した「ヤッホー調査票」を調査者が、事務局へ提出しヤッホーポイントを申請/申請は、調査者1人に対して1年に1箇所の申請が可能
認定	申請されたヤッホーポイントを「山彦認定士」が現地にて確認し、3ランク（印・印・印）で「認定」/既登録のヤッホーポイントが10m以内に存在する場合は認定されない/認定されると「ヤッホー調査事務局」の認定印を押印
登録	認定後、「上勝町教育委員会」より登録確認の印が「ヤッホー調査票」の【原本】に押印され、登録台帳に記帳されて登録完了/申請は、調査者1人に対して1年に1箇所の申請が可能/登録完了後、事務局から「ヤッホー調査票」原本が調査者に送付

表4 調査票の記入事項 印：ヤマビコ認定士認定作業

調査項目	記入の内容
著者者属性	氏名、年齢、住所、電話・FAX、e-mail アドレス
調査地点属性	日時、天気、気温、湿度、緯度・経度
ヤッホー調査	調査場所 / 返ってきたヤマビコの回数 / 返ってくるまでの時間 / 返ってきたときの気持ち
調査体験で感じたこと	文字・絵などで表現
ヤッホーポイントの名前	ひらがな・カタカナ・アルファベットで10文字以内
ヤッホーポイントの種類	柏手ポイント、ヤッホーポイント、歌声ポイント、ホラ貝ポイントから選択
申請確認印	ヤッホー事務局が押印 申請番号記入
認定登録印	上勝町教育委員会が押印 登録番号記入

3. ヤッホー調査結果

表3の調査要領により、2002年1月～3月に正木ダム湖周辺等で実施した参加型ヤッホー調査結果を表5、表

6、図2に示す。

表5は参加者集計を示したもので、表5において登録件数21件に対し22名の参加者数は、1件の登録につき2名で登録したことによる。図2は正木ダム湖周辺で登録されたヤッホーポイントを示したもので、ダム湖周辺に、良好なヤッホーポイントが存在することがわかった。表6は、ヤッホー調査票の記載事項を抜粋して示したものである。それぞれの調査参加者が決定したヤッホーポイント名が示されている。

表5 ヤッホー調査の参加者集計

項目	集計
調査票購入数	49枚
登録件数(参加者数)	21件(22名) / 地区別内訳(22名中)・上勝町内6件、徳島県内13名、徳島県外3名 / 男女別(22名中)・男性14名、女性8名 / 大人、子供(22名中)・大人17名、子供5名

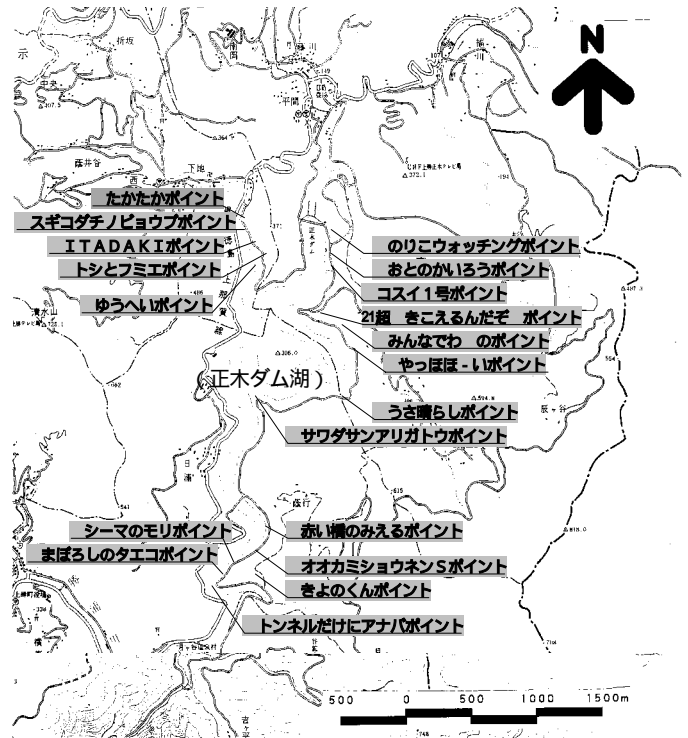


図2 ヤッホー調査位置図(正木ダム湖周辺)

表6 ヤッホー調査登録一覧(第1期2002年1月16日~3月31日、印はダム湖以外でのヤッホーポイント)

番号	ヤッホーポイント名	性別	年齢等	住所	ヤマビコが返ってきたときの気持ちや調査で感じたこと
1	コスイ1号	男	60代	上勝町	壮快であった。矢印の方向が一番良い。返る時間もポイントのところが一番良い
2	ITADAKI	男	40代	北島町	とても気持ち良かったですね。同伴のみなさん全員がおすすめのポイントを私がいただきました。どうもありがとうございました
3	スギコダチノビュー	女	50代	徳島市	ポイント探しで苦労したのでヤッホーが返ってきたときヤッタ!と思った。豊かな広がり開放感を感じた。
4	たかたか	男	小学生	徳島市	スッキリ、(絵で表現)
5	赤い橋のみえる	男	30代	徳島市	ヤホ、ヤホ...ヤッホと聞こえた。
6	ゆうへい	男	小学生	徳島市	(絵で表現)
7	オオカミショウネンS	女	20代	藍住町	幸せな気持ち、(絵で表現)
8	まぼろしのタエコ	女	40代	徳島市	感激の一言です。夏は、水が引いてキャンプをしているらしいです。冬場はビューポイントで、冬だけ楽しめる幻のポイントです。
9	シーマのモリ	男	60代	徳島市	声のでたとということで安心した。新しい奇抜な経験ができて良かった。
10	おとのかいろう	男	50代	土成町	自分の音楽ホールみたいですがすがしい気持ちになりました。音の回廊の様で返ってくるヤッホーにリズムがありました。
11	トシとフミエ	男女	40代	徳島市	(未記入)
12	うさ晴らし	男	40代	徳島市	晴れやか。「ヤッホー」を叫ぶには体重移動が必要とのこと。奥が深い。
13	サワダサンアリガトウ	女	20代	宇治市	ヤッター。はじめはヤッホーと言えなくて、オーイ、オー、アーとか言っていたのですが、一度、ヤッホーと大声で叫ぶと気持ちがよくてやみつきになりました。とても楽しかったです。
14	トンネルだけにアナバ	男	20代	京都市	うれしい、楽しい。トンネルがあるせいか、何度かはね返ってきました。景色もなかなか良です。ホラ貝がふけなかったのが残念。
15	のりこウォッチング	女	20代	愛媛県	(未記入)
16	じでんちゃのさと	男	50代	上勝町	思いでの場所で、ホラ貝ヤッホー返ってきてホッとしました。いろいろな所でいろいろな応えが。山との森との語らい、不思議な体験。
17		男	20代	羽ノ浦町	(未記入)
18	タナダウタゴエ	男	60代	上勝町	ヤッホーホーと返る。ヤッホーおじさんの横笛が最高。「どんな美女の笛か」と思いました。
19	やっほーい。	男	小学生	上勝町	楽しかった
20	みんなでわ の	女	中学生	上勝町	気持ち良かった
21	超 聞こえるんだぞ	女	中学生	上勝町	うれしかった。ヤッホーなどさけぶことが私たちはあまりしないので、とても楽しかったです。自分の声が大きく返ってきてうれしかったです。

4. 活動プログラムのねらい

(1) プログラム立案の思想とねらい

上勝ヤッホー体験プログラムは、単なる自然体験だけを目的としてプログラムされたのではなく、表7に示す思想やねらいのもと立案された。ここでは表中の について示す。

表7 「上勝ヤッホー体験プログラム」におけるプログラム立案の思想とねらい

面白いこと、わかりやすいこと、ためになること 既整備の社会資本やありのままの自然を活用すること 主体的参加を持つ自然体験プログラムであること 総合的な学習等と介して学校教育と連携すること 地域の新たな経済活動に寄与すること 地域と都市との交流に資すること
--

(2) 主体的参加を持つ自然体験プログラム

上勝ヤッホー体験プログラムのプログラムは、主体的参加を持つ自然体験プログラムとして立案された。澤田らは、社会学及び生態学等の研究成果を整理して、表8の交換原理を介したコミュニティ・デザインの評価指標を示した¹⁾。表9は、表8をもとに上勝ヤッホー体験プログラムを評価したもので、新たに、「地理的帰属性の原理」を追記した。上勝ヤッホー体験プログラムのヤッホー調査プログラムでは、表9を用いてヤッホーポイントの登録認定制度・登録認定の回数・ヤマビコ認定士の資格制が意図的に計画され、最終的には、表9の欄が全て埋まるまで細部が検討された。

表8 交換原理を介したコミュニティ・デザインの評価指標（1998 澤田ほか）

評価指標	内容
場の原理	コミュニティデザインを行う実在の「場」があること
成功の原理	当事者の行為の成功により、当事者が報酬を受けること
刺激の原理	成功の原理における当事者の行為と報酬の関係が不確定でなく、ある程度決まっていること
価値の原理	当事者の行為が、当事者にとって価値があること
変化・複合の原理	成功の原理、刺激の原理が単調でなく、変化に富み、当事者が飽きないこと
継続性の原理	成功の原理、刺激の原理が単発的でなく、継続すること

表9 表8による交換事例の評価（凡例 左欄の内容が認められるもの）

評価指標	上勝ヤッホー体験プログラム
場の原理	: ヤッホー調査の実在の場が存在する
成功の原理	: ヤッホーポイントを見つけ認定される 上勝町教育委員会により登録され、地図に残る / 資格に合格するヤマビコ認定士になれる
刺激の原理	: ヤマビコ認定士によりヤマビコが認定され、登録ができる
価値の原理	自然を傷つけることなく自然にふれあえる / 何年たっても捜したヤッホーポイントが残っている
変化・複合の原理	参加者によるヤッホー調査、探索者以外のヤッホー調査場所でのヤッホー確認が可能、資格試験制度
継続性の原理	申請・登録できるヤッホーポイントは、1年に1人1回 / 何年たっても捜したヤッホーポイントが残っている
地理的帰属性の原理	公共空間に個人が命名したヤッホーポイントの名前が残る

5. おわりに

本研究では、徳島県上勝町内の正木ダム湖周辺で企画実施された上勝ヤッホー体験プログラムについて下記について報告した。

- 1) 上勝ヤッホー体験プログラムは、「ヤッホー調査」「ヤッホー地図作成」「ヤッホーホームページ作成」「ヤッホーセミナー」「コミュニティビジネス」「人材育成・組織づくり」から構成されており、これらについて報告した。
- 2) ダム湖周辺でのヤッホー調査結果について報告した。2002年1月から3月の間に21箇所のヤッホーポイントが発見され登録された。
- 3) 上勝ヤッホー体験プログラムについてプログラム立案の思想やねらいを示すとともに、本プログラムが交換原理などの主体的参加をもった自然体験プログラムであること、などを示した。

謝辞：本研究は、「環境と川と教育を考える研究会」を通して、平成13年度河川整備基金助成の研究として実施されたものである。

参考文献等

¹⁾ 澤田俊明・山中英生・水口裕之：交換とアイデンティティを用いた生活環境把握のアプローチ、環境システム研究 Vol.26、1998年10月、p.p.219-230